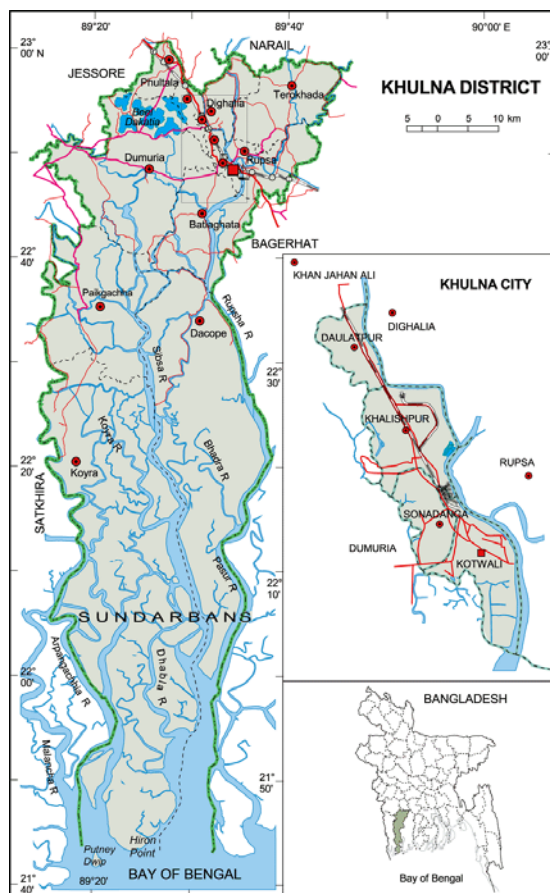


## シュンドルボン森林地帯の沿岸地域の女性たち メーザン・ラフマン（バングラデシュ）

シュンドルボンのマングローブ林の近くで生活や仕事をしている沿岸地域の女性たちは、何世代にもわたって何十年もの間、クルナ地区およびその近郊で、まさに踏みにじられながら貧困にあえいでいます。このデジタル時代にあって、女性たちは未だ、殺人、レイプ、望まない妊娠、セクシャルハラスメント、職場での差別、暴行、アシッドアタック（酸を顔や体に浴びせかける暴力）、わいせつ行為、人身売買などの被害にあっているのです。被害を受けると、被害者自身が売春を行うようになったり、縁談が破談になったり、ドメスティックバイオレンスにつながったりなど、さまざまな形で影響が出ます。こうした悲惨な状況に対応しようにも、女性は、法律の執行機関や病院や政府当局と交渉することができません。

社会宗教的な慣習により、地方では女性の多くは主に家事に時間を費やしています。子育てや高齢者の世話をしながらも、台所の仕事や洗濯をこなし、さらには収穫や加工の手伝いや、燃料となる薪、牛のふん、麦わらを集めます。教育を受ける機会や読み書きを覚える機会が奪われることもあります。また、地域によっては女性が投票を自粛するところもあります。社会の主流から取り残された弱い立場の女性たちは、貧困のサイクルの中で生まれ、暮らし、死んでいくのです。自分の子どもを学校に通わせることもできず、十分な食事や栄養もないままに暮らし、食事やヘルスケアが与えられることもありません。政府が作ったシェルターで生活し、教育や意識構築が不十分なために雇用もありません。



シュンドルボン（クルナ地区）

### ■ マイクロクレジットがもたらした女性の躍進

ノーベル賞を受賞したムハマド・ユヌス博士は、マイクロクレジットにおいて先駆的な取り組みを果たしました。博士によると、クレジットは貧困女性の権利であり、だからこそ、何百人もの女性が自立を果たし、マイクロファイナンスの機関や NGO で職を見つけたので

あり、彼女たちこそがバングラデシュの地方の発展を真の意味で進めているのです。こうした女性たちは地方のコミュニティを草の根レベルで構築しており、収入を生み出し発展につながるプロジェクトを立ち上げています。村落の女性たちは初等学校や高校で講師として働き始めており、また、保健や衣服の分野への進出も始めています。

死者も出したサイクロンの「アイラ（2009年5月25日）」や「シドル（2007年11月15日）」では、バングラデシュの南部の沿岸地域が壊滅状態となり、塩水に追い出され水浸しとなった女性や子どもたちは、気候変動の犠牲者である「環境難民」になりました。家を失い住むところがなくなり、



サイクロンの被害により、沿岸部の多くの女性が助けを必要とした

通常食糧の安全保障、安全な飲み水、衣服、シェルター、保健サービス、学校教育なども望めませんでした。さらに唯一の収入源であった漁業、農業、林業も2年以上にわたって深刻な被害を受けました。

女性たちは水田漁業、林業、輸出工場でのエビの加工、水田漁業の泥床の雑草取り、自宅の畑の手入れや世話、家畜の世話などに従事しています。マイクロクレジットはバングラデシュの女性にとって恵みであり、これにより、女性たちは小さなお店や茶店など、規模の小さい商いを簡単に始めることができるようになりました。慢性的な貧困、失業、収入を生み出すスキームの不足などにより、気候変動による環境難民や住むところのない女性たちは、雇用や食糧の安全保障を求めて都市部に集まり、特にたくさんの方が輸出用の既製服（RMG）産業に従事しています。



塩害により安全な飲み水の水源を失った女性たちが、NPOからの配給を受けている様子

地方では女子の教育が保証されておらず、よって失業率はなんとも驚くべきレベルです。生活や生計の確保につながるスキルがないことに加え、職業訓練を受けることもなければ、ノウハウも身に付けておらず、求人市場に

参入することもままなりません。村落の女性、子どもたちが都市部のスラムに移住する率も非常に高くなっています。原則的および法的には、政府組織が、さらにはNGO、NPO、市民社会組織、女性ネットワーク、市民グループ、ロビースト、メディア、各政党が、女性のエンパワーメント、教育、雇用、ジェンダー平等の確保に向けて声を上げています。ジェ

ンダーバランスに向けてより大きな声を上げることで、女性にとって良くなった分野もありますが、基本的にはまだ平等ではありません。女性のエンパワーメントに関して追い風が吹いている今だからこそ、地方の女性の発展に関する取り組みを、さらに強化しなければなりません。可能性を広げることができるのは女性たちなのです。マイクロファイナンスは女性にとって恵みであり、わずかながらでも収入を得ることができれば、その女性は生きていくためのスキームを得たこととなります。女性たちの読み書きの能力は日々向上しており、学校、NGO、家族計画プロジェクト、クリニックなどの分野で活躍しています。

#### ■教育における性差

中等学校でのジェンダーギャップは、全体的な退学率の増加に反映されており、これは、バングラデシュの地方の教育における主要な課題となっています。初等教育や前期中等教育における入学率には改善が見られるものの、「バングラデシュのジェンダー平等の達成に向けた道のりはまだ遠い」と、国連女子教育イニシアティブから指摘を受けています。同機関は、初等教育および中等教育におけるジェンダーギャップの縮小を目指す国際的な組織です。初等教育の入学率という点では、ジェンダー平等は達成されていますが、中等教育になると、女子学生の数は大幅に減少します。沿岸地域においては、さらなるジェンダー平等が必要です。